



# 緑風だより



発行 障害者支援施設 神奈川県立さがみ緑風園

第91号

〒 252 - 0328 相模原市南区麻溝台2 - 4 - 18

令和5年3月

TEL 042 - 766 - 2255 URL [www.pref.kanagawa.jp/cnt/f488/](http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f488/)

## 神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～

生活支援部長 堀口 利里

昨年10月21日に公布された「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例」が、いよいよ本年4月1日に施行されます。「条例」というと、我々の生活の中ではあまり馴染みがなく、難しい文章で分かりにくいというイメージがありませんか？

神奈川県では、障害当事者の方や、「お役所の文章は苦手」と思われている方々にも、この条例を作った理由や目的などをしっかりお伝えしたいと考え、条例のわかりやすい版「みんなで読める 神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～」を作りました。題名の「みんなで読める」には、障がいのある当事者同士で集まって読んだり、一人で読むのが難しくても支援者などと一緒に読んだり、分からないことを聞いたりして欲しいという思いが込められているとのこと。当園でも、あるホームでは、職員が利用者お一人お一人にこの条例を読み、聞いていただく機会を設け、まさに「みんなで読める」を実践しています。

さて、この条例のわかりやすい版の中で、『当事者目線の障害福祉とは』、

- ◇ 障害のある人に関係するすべての人が、本人の気持ちになって考えること
- ◇ 本人の望みと願いを大事にすること
- ◇ 障害のある人が、自分の気持ちや考えで、自分に必要なサポートを受けながら暮らすことができるような社会を作ること

と説明されています。そして、『基本理念（当事者目線の障害福祉を進めるための大切な考え方）』のひとつに、『障害のある人が、住みたいと思う場所で、自分らしく暮らすことができるようにすること。』を掲げています。

緑風園では、今、まさに、この条例の内容を具現化するために、園を挙げて利用者お一人お一人の意向の確認や、望む暮らしの実現に向けて取り組んでいます。

条例のわかりやすい版は、印刷したものを園の玄関に設置しました。また、インターネットで「神奈川県みんなで読める条例」と検索すると表示されますので、是非、ご一読ください。

## ～令和4年度実践報告会～

地域支援課長補佐 西川 聡

これまで実践報告会は午前・午後一日を通じて長時間の開催でしたが、今年度は開催方法を見直して2月1日と8日の週を跨いだ2日間の日程で開催しました。これにより多くの職員に参加してもらうことが出来ました。

1日目は心理スタッフによる意思決定支援の取組み、ホームによる地域性を考慮し自宅近くの障害者支援施設へ当園で初めて移行された方への取組み、新規採用職員の一年の振り返りについての発表でした。2日目はリハスタッフによる活動の質の評価の取組み、ホームによる長期在園した利用者の施設移行に係る取組み、地域移行の取組み総括の発表でした。いずれも当事者目線の支援、意思決定支援をベースに利用者の皆さんの望む生活の実現にむけて、各セクションにおいて実践した支援の経過が発表されており、改めて日頃の支援を振り返り今後の支援へ繋げるためのヒントとなる内容が盛り込まれたものとなりました。

それぞれの発表を通じて、私たち職員は今提供している支援が今の利用者にとって本当に良いものとなっているか常に見直して悩み続けること、チャレンジし続けることこそが重要であるということを再確認することが出来ました。

春を迎えようやくコロナ禍も出口が見えてきました。私たち職員一同、今回の実践報告会を通じて感じたこと、考えたことを支援に生かして前向きに進んでいきます。

この事業は、県が公益社団法人かながわ福祉サービス振興会に委託し、障がい福祉に精通した有識者をアドバイザーとして派遣し、コンサルテーションを実施するもので、当園は、令和3年度からこの研修を実施しています。

本年度は、社会福祉法人常成福社会 岡西博一氏をお招きし、個別支援計画を通じたスーパーバイズの実践をテーマに研修会を開催しました。

スーパーバイズとは、ホーム長や主任等の先輩職員（スーパーバイザー）が、ホーム職員に対して、業務の指導やアドバイスをを行い、サービスの質や技術向上を目指すことを言います。

本研修では、①信頼関係は、「日々のかかわり（表情、言葉、態度）」と「自身の行動」により作られる。②利用者の夢や希望から導く目標設定の立て方。③支援計画作成時に課題ばかりの計画に陥りやすい点を克服するため、自分自身の計画だったらと想像してみること。④わかりやすい計画は、支援者も何を支援すれば良いか明確になる。等を学びました。

受講者からは、・傾聴という姿勢の大切さを改めて理解した。・職員個々のストレンクスを活かしたホーム運営が大切。・信頼関係の強化は、他者からみられていることを意識することが重要等、多くのご好評をいただきました。

### 活動の評価について

#### リハビリテーション科 篠崎 雅江

活動を行うことで、心身機能の維持・向上や楽しむこと、他者との交流など、利用者の方の様々なニーズを掘り起こしたり、満たすことができます。活動をどのように活かせばよいかを考えるためには、活動に関する評価が必要です。今年度は試験的に作業療法士が「活動の質評価表」（Assessment of Quality Of Activity, A-QOA, アコア）を用いて2つの日中活動の評価を試みました。

A-QOAは表に記載された項目を観察で評価します。その結果から、個人戦で行われる活動にチーム戦を取り入れて満足感を共有したり、映画鑑賞の最後にクイズを挟んで回想を取り入れるなど、工夫による活動の質の向上と新たな可能性が示唆されました。

リハビリテーション科では、園職員とともに利用者の方へのよりよい支援のために、今後も評価を積み重ねて活動を模索していきます。よろしくお願ひ致します。

表 A-QOAの評価項目
活動の遂行
活動の結果
活動時の感情表出
社会交流
言語表出

### クリスマス演奏会～利用者の喜びと可能性の追求 地域支援課 早坂 一生

昨年の12月、クリスマス演奏会が開かれました。まずは、ピアノの得意な利用者Aさんが華麗にキーボード演奏を披露。Aさんは、かねてから「コンサートがしたい!」との希望があり、この日のために日々熱心に練習に取り組んできました。演奏後たくさんの拍手を受けてとても満足そうなお様子でした。

また、地域支援課職員も、少しでも利用者の皆さんに季節感を感じ楽しんでもらいたいと「ハンドベル演奏隊」を結成し猛練習。Aさんのキーボードと一緒に「アマリリス」「雪」「ジングルベル」「きよしこの夜」を合奏しました。ハンドベルは楽譜に合わせて手を動かすことができれば皆で楽しめる楽器です。当日、利用者の皆さんに「一緒に演奏してみませんか?」と聞くと「やりたい!」と次々に手が上がりました。職員が手を添えて一緒に演奏すると、1曲終わるごとに「やったー!」「素敵!」「ブラボー!」と笑顔と歓声が飛び交い、クリスマスの楽しいひと時を過ごしました。

今回はクリスマス会での演奏でしたが、日ごろの活動でもハンドベルを活用し、少しずつ練習すれば利用者の方のみの演奏も可能ではないかと感じました。今後も様々なことに挑戦し、活動の選択肢を広げ、利用者の喜びと可能性を追求していきたいと思っています。

#### 編集後記

7 ホーム 深澤  
8 ホーム 高  
春の日差しも心地良い季節になりました。コロナ禍も徐々に収束に向かっています。楽しい春が過ぎせるようお祈り申し上げます。

